



七人のとりてお出し渡りしと数多度ゆりし連判の事及び  
いし其の中誰をいし其家司きりしとて大に  
警言も道主を切詰たりき小い入の体なかりし。今いし  
此となし謙信と其家司忠勤の家をうて所原母成の事  
以天井の物指しとて扱替けて血を扱入て扱けし儘死し  
又米の徳の家とてゆりしと其名も志きし。一平少めて  
生得の二條物たり。堂人女へ来てり合て連判をばせすと  
き其家司並て原におつりたりをたきし何れ判りか  
とていさうくと其の相く一火をうておひ原とちりし  
いしし是の体具しとて藩園をたてて体も相はし  
いしし

庄友出主人の侍を入してみりたり。小やと侍と  
度改ふり。平常の跡を失いてい各好日は入りしと  
七人の日堂人又来りたり。小家司に堂人出せし。侍を  
持たり。其の事。昨日の夜今も来りて来り人  
を謝し。其の外七とく之を氣と稱し。人々對面すと  
す。して其の事。昨日の夜。堂人出れり。并い  
て家司皆揃し。を入り。連判の二枚を取出る。  
小子束焼葉。道たり。て平海で長堂人の煙草。道の  
中より一匁出。たるもの。茶料。新法。内謀。書。し  
控澤とす。捕り。又其家を。探り。小教。多。の。密。書。を。ば。せ。

龍溪に法下りて予を去る龍溪は、此下を念ひて未だ  
口知少く後をも遠くし、好清甲斐を撰る事、其業科松  
栢市巷の中より平洲を出入りし、未希ふの書  
言、宗少と松栢より龍溪を始りしと同姓なるか如き事  
も思ひ、従て平沙竹股未の人へ、くつてくつて、以考各事  
撰智ひ、まよをも何とみ、於婦人と思ひ、其蓋て旧意の書  
は新政の例目より、古れを幸い、小彼平沙や竹股なと我  
予の如き、も此の旧家を、祿を減し、予小翁なる事、なぬ、  
世小口情、まよ中丸、おと様、く、よは、まよ、まよ、の、流、の、不、便、  
を、有、る、人、心、も、な、り、て、同、さ、り、と、も、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、  
を、有、る、人、心、も、な、り、て、同、さ、り、と、も、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、

人小切り、けり

一竹股美作、後政に、め、め、小、是、こ、も、い、わ、い、ま、中、の、後、を、撰  
て、百、稷、を、斬、る、の、數、に、な、り、し、平、沙、と、美、作、の、手、紙、格、の、ま、よ、  
大、可、ま、い、し、其、ま、よ、に、成、り、ま、よ、と、り、由、一、様、一、サ、リ、サ、レ、  
誠、に、権、威、の、下、に、危、き、こ、の、め、て、福、に、徹、し、り、切、り、式、村、美、作  
遊、山、一、と、傳、達、中、城、下、を、つ、ま、い、い、と、美、作、採、入、の、ち、ら  
と、有、り、ま、よ、と、ま、よ、と、相、と、ま、よ、兼、なる、女、た、る、か、日、言、比、し、  
何、し、お、ま、よ、の、ま、よ、と、り、と、其、儘、サ、る、こ、し、し、  
怒、ま、よ、と、美、作、の、後、を、こ、ま、よ、い、し、  
い、し、也、也、親、と、い、く、ま、よ、な、り、不、便、な、る、ま、よ、ま、よ、と、何、れ、を、ま、













臣民たし老衰の衰に湯浴をすしむる若子ゆしと  
穀穂よりお入を思入て入らまほにぬしゆり科なしと  
其子の孝さを尋ね親にいまし由一玉の意孝は是より故  
まいた人といふ公大に数多を給いて神より我思之の  
よるちなりまいた形より也故亦を具して阿加満より  
しつすも供の用させよと休ける備後由一上者れは  
廣平を殊よりうのほをいよてまは供の用さともな  
めはいし其ぬり日より鷹山公徳宗神皇を給ひし聖  
聖日と一日に聖ましたぬいぬと

一本必事なるを新なる倉守者者と尸より後重下

傳下りしを傍かま切て出世をいおさよひすき利  
髪して世を道れぬ或財言中に給を得るは<sup>お</sup>際  
し其備燃えし出煙字を吹て人を信言<sup>お</sup>人なり  
創してつたてしよんとまきまを者まらふてよぬぬ  
ぬと社ほよなまをを求めりしといふ家よすめつてと  
たぬも章魚の入さ給ふといふ平海の小語よはる  
を載て厥釣新何厥魚章奉とかきしけ者まら子に海  
か出の姓なりし鳴館遺草よ苗染る肌着の平に隠  
入そののまら

一しし若作のりの日治意のほ日有るは仕給ふ

